

2010年(平成22年)10月22日(金)

従来より5倍速充電

環境技術の開発と街の活性化を目指し、御嵩町と相互連携協定を締結した「キャリアオ技研」(名古屋市長、富田茂社長)が、太陽光発電と組み合わせた「急速給電システム」を開発、21日、同町商工会館で記者発表した。持ち運び型のソーラーパネルを使い、従来より最大5倍速で充電するうえ、リチウムやニッケル、鉛などあらゆるバッテリーの充電が可能。非常用電源や被災地での飛行ロボットの電源など、幅広い用途での活用が期待されるという。

【小林哲夫】



従来に比べ最大5倍速の充電を可能にしたシステムを手で説明する富田社長

急速給電システム開発

キャリアオ技研 あすから御嵩で展示

パネルを背負って被災地に入り、探索活動や通信機器として活用できる。

同社は08年11月に同町と協定を締結。同町ECOビジネス創出実行委員会(事務局・町商工会)が創設した研究開発助成金を受けて研究を進めていた。従来の充電器は、所要時間が一定で長く、電池の機種への対応能力も限られていた。同社が開発したシステムは、充電器本体は、長さ約20センチ、幅13センチ、厚さ6センチの軽量アルミ製のソーラーパネルを含めた総重量は5、6キロと軽く、簡単に運べる。富田社長は「充電時間は従来の0・1〜5倍速の間で自由に設定できる。ゆっくりならすぎ間なくたっぷりの充電が可能で、緊急充

被災地で活用期待

電池を並列的にバランスよく充電することで時間を短縮、一つの充電器で多様な電池に充電できるようにした。KYB(東京都港区)が開発したソーラー投光器と組み合わせたシステムは「MEPPU」(みたけ・エマーシェンシー・ポータブル・パワー・ユニット)と名付けられ、ソーラー電すれば機器の手早い操作ができる」と話し、「飛行探索ロボットなど被災地での活躍が期待できる。メーカーとの協力が進めば、さらに活用範囲が広がる」としてパートナー企業を探している。同システムは23、24の両日、御嵩小学校で開く同町産業祭で展示される。